

---

# ご挨拶

## 報告会開催にあたって

21世紀の科学技術のなかで、最も重視されている情報科学技術は、経済社会の側面から見ると既存の産業の生産性を大きく向上させるとともに、新しい技術の開発や新産業の創出に貢献することが期待されます。

なかでも、コンピュータシミュレーションに代表される計算科学技術は、「実験」、「理論」に次ぐ第三の科学技術手法として位置付けられ、物質資源を大量に消費せず、比較的短期間で様々な分野の問題を解決するための有力な方法として注目されております。

一方、これまで以上に生産的な研究環境を実現するための情報基盤として、各地に分散している研究者、研究機関がネットワークを介して共同して研究開発を行える環境、ネットワーク上に分散した情報資源を系統的に統合し、新しい生産システムの創出が望まれております。

これらの状況を踏まえ、当事業団では、計算科学技術の手法を用い、高速ネットワークを活用した特定分野の研究開発を促進することにより、計算科学技術の進展とネットワークの高度活用を図ることを主な目的として、平成10年度から「計算科学技術活用型特定研究開発推進事業」の推進に着手致しました。

この事業は研究開発課題を産学官から広く募集し、優れた課題について共同研究あるいは委託研究により推進するもので、3年間研究開発を進める「基本型」と1年間で研究開発を行う「短期集中型」があります。

この度の報告会は、平成10年度に採択された基本型17課題が平成13年9月に研究開発を終了することに鑑み、各課題の事前評価（課題選考）を行った計算科学技術委員会委員に対して、研究開発の進捗状況を報告するとともに、当初の目標を達成するために種々の助言あるいはコメントを得る機会を持つために開催するものです。従って、研究者の方々は本報告会を一つのステップとして、今後の研究開発が一層進展し優秀な成果として結実することを期待しています。

平成12年 12月4日  
科学技術振興事業団  
専務理事 宇津野 宏二

---